

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	MI	学部・学科	国際教養学部
学 年	2 年	派遣国	韓国
派遣大学	仁川大学		
期 間	2025 年 8 月 30 日～2025 年 12 月 20 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	◎
滞在費	約 100000 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	徒歩で、約 5 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	40000 円	学食、カフェ、コンビニ、外食
学用品購入費	5000 円	教科書、日記用具
交通費	3000 円	地下鉄、バス、タクシー
交際費	30000 円	ショッピング、映画
その他	15000 円	日用品など

合計

約 10 万円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

仁川は、治安が良かったので、日常の中で不安や危険に感じたことはありませんでした。高層ビルが多かったり、道路が広かったり、夜景が綺麗であったりと、みなとみらいと少し似ている印象を受けました。私の留学先は仁川の松島（ソンド）というところで、富裕層が多く住んでいる地域でもあり、仁川大学の他にも大学があるので学生も多く、そういった影響もあって、治安も良いのだと思います。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	危機管理システム J-TAS / その他（東京海上日動海外旅行保険）		
加入期間	4 ヶ月間	保険料	合計 約 48000 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	() ヶ月間	保険料	() 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市/町（仁川市松島）

仁川は、韓国の空の玄関口である仁川国際空港を有しています。そのため、外国人の往来が多く、国際色豊かな雰囲気が特徴です。また、港町としても発展してきた歴史が残っており、古くから海外との交流が盛んな地域でもあります。市内には、規模の大きい仁川チャイナタウンがあり、開港当時の歴史や異文化交流の名残を感じることができます。仁川市の中でも、大学が位置する松島（ソンド）国際都市と呼ばれる地域では、高層ビルや大学、国際機関が集まり、近代的で整備された街並みが広がっています。ビルの多さや夜景の綺麗さ、整備された道路など、横浜と似ている点も多いと思います。このように、仁川は歴史ある港町の雰囲気と、現代的な都市機能が共存している点が大きな特徴です。

また、海に面しているため、海辺の観光地や自然を身近に感じられる環境も魅力の一つです。松島は高級住宅街も多く、ソウルなどの都市圏に比べて比較的安全で、治安の面でも心配することは一切ありませんでした。都市の利便性と落ち着いた生活環境の両方を兼ね備えた都市だと思います。

【学業編】

1. 大学情報

大学	仁川大学	所在地	仁川市松島
最寄空港	仁川国際空港	空港からの距離	約 30km
空港⇄大学	(車約 30 分・地下鉄 or バス約 60~70 分) *移動手段		
学生数	約 1.1 万人	留学生数	非公開
学部	人文学部 自然科学学部 社会科学学部 グローバル政経学部 工学部 情報技術学部 経営学部 芸術体育学部 教育学部 都市科学学部 生命科学技術学部 融合自由専攻学部 東アジア国際通商学部 法学部 *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	人文学部日本地域文化学科 *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(12)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	4 級韓国語		4 級韓国語リスニング	日本語基礎会話	
午後	4 級韓国語リーディング		日本語基礎会話	4 級韓国語の理解	

3. 履修内容

科目	4 級韓国語		
履修期間	9 月から 12 月	単位数	3
授業内容／形態	スピーキングを中心とした授業で、会話や発表を主に行う。 4 級韓国語の教材を使い、単語や文法を学びながら、それを会話や発表の場で実践して身につけていく。 相対評価。		
成績	A +		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	4 級韓国語リーディング		
履修期間	9 月から 12 月	単位数	3
授業内容／形態	リーディングを中心とした授業で、「進路・観光・交通・食事」など様々なテーマに関する文章を読んで、正しく早く読む力を身につける。 4 級韓国語の教材を使い、新しく学んだ単語や文法を用いて書かれた文章を読んで、場面に応じた適切な使い方を学ぶ。 相対評価。		
成績	A +		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	4 級韓国語リスニング		
履修期間	9 月から 12 月	単位数	3
授業内容／形態	リスニングを中心とした授業。 会話やスピーチ、ニュースなどの音源を聞いて、誰が何を話しているのか、最も重要なポイントはどこなのかを理解する。 相対評価。		
成績	A +		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	4 級韓国語の理解		
履修期間	9 月から 12 月	単位数	3
授業内容／形態	4 級韓国語の教材を用いて、新しい単語や用法を学びながら実践していく。主にライティングがメインで、TOPIK で過去に出題された書き問題を解きながら、文章の構成や接続、数値データの引用の書き方などについて学び、実践を重ねながら力をつけていく。 相対評価。		
成績	A +		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	日本語基礎会話		
履修期間	9 月から 12 月	単位数	3
授業内容／形態	日本地域文化学科の学生が主に受ける授業。 日本語会話の授業は、レベルが基礎・中級などに分かれており、私が履修した基礎では、日本人学生は私だけでその他は仁川大の学生でした。 韓国語や日本語を使いながら、日本語を学んでいる学生に日本語を教えたり、韓国人の友達と会話したりします。 1 クラスは 20 人程度で、先生は日本の方です。 日本人の学生は、テストの代わりにレポートで評価がつけられます。		
成績	A +		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			

YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

今回の留学生生活を通して、私が最も強く実感したことは、異文化交流において本当に大切なものは何か、ということです。もちろん語学力は重要です。しかしそれ以上に大切なのは、「相手のことを知りたい」「仲良くなりたい」という純粋な気持ち、つまり相手への好奇心や興味、そしてリスペクトなのだと気づきました。私はもともと英語が苦手で、特に話すことに強い苦手意識がありました。留学前は、自分の英語がとても恥ずかしく、話したくても話せない、英語を話そうとすると緊張してしまうという状態でした。日本にいるときも、留学生ともっと関わりたい、交流したいという気持ちは強くあったにもかかわらず、自分の英語への自信のなさから、英語で話すことを避けてしまい、もどかしい思いをしていました。しかし、実際に留学をして、イベントや授業に参加する中で、さまざまな国から来た学生と出会いました。そのとき、「ここで恥ずかしがっていては何も始まらない」と思い、たとえつたない英語でも、身振り手振りや表情も使いながら、自分から積極的に話しかけるように努力しました。すると、相手も私の気持ちをくみ取ってくれて、ゆっくり分かりやすい英語で話してくれたり、言葉を選びながら歩み寄ってくれたりしました。さらに、私の少しおかしな英語を否定するのではなく、「面白い」「ユーモアがある」と前向きに受け取ってくれて、笑顔や良いリアクションで応えてくれました。そのおかげで会話が弾み、場の雰囲気も和らぎました。この経験から、英語でのコミュニケーションは、自分が想像していたほど完璧である必要はないのだと気づきました。仲良くなりたいという思いを素直に表現すれば、その気持ちは相手に伝わり、相手も心を開いてくれるのだと学びました。また、コミュニケーションは言語だけで成り立つものではなく、視線、表情、リアクション、身振り手振りといった非言語的な要素も大きな役割を果たしているのだと強く実感しました。その温かさに触れたことで、もっと自分を表現したい、もっと相手を理解したいと思うようになりました。一方で、ボディランゲージだけでは限界があることも痛感しました。確かに仲良くなることはできますが、細かいニュアンスや自分の本当の気持ち、深い考えを十分に伝えることは簡単ではありませんでした。英語の単語や文法がとっさに出てこず、簡単な表現しかできない自分に何度ももどかしさを感じました。みんなの共通言語は英語であり、英語力が高いほど、自分の表現の幅が広がり、より深く相手を理解し、理解してもらえるのだということも、身にしみて実感しました。だからこそ私は、異文化交流においては、まず伝えようとする姿勢、関わろうとする姿勢」が何よりも重要であると学びました。しかし同時に、その姿勢を土台として、語学力をさらに高めていくことも欠かせないと感じています。視線や表情、リアクション、身振り手振りといった非言語的なコミュニケーションを大切にしながら、英語力も向上させていくこと。それが、これからの私の課題であり目標です。この留学を通して学んだ「完璧でなくてもいいから、一歩踏み出してみることの大切さ」と、「伝えたいという気持ちの力」を胸に今後も色々なことにチャレンジしていきたいです。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

今回の留学を通して得た経験や学びを、ひとつの思い出で終わらせるのではなく、今後の学生生活や将来にしっかりと活かしていきたいと考えています。まず一つ目は、横市での留学生のチューターや日本語授業のボランティア活動に参加することです。私は実際に「留学生」という立場を経験したからこそ、言語の壁や文化の違いによる戸惑い、日常生活の中での小さな不安や緊張などをよく理解していると思います。慣れない環境の中で生活することの大変さや、誰かが声をかけてくれることの心強さも知りました。だからこそ、自分が留学中に得た気づきや経験を活かし、横市に来る留学生にとって少しでも安心できる存在になりたいです。自分が支えてもらった側だったからこそ、今度は支える側として貢献していきたいです。二つ目は、留学先で出会った人たちとの交流を継続していくことです。留学中には、多くの留学生や現地の学生（韓国人）と出会い、深い関係を築くことができました。タイ、イタリア、ドイツ、台湾など、さまざまな国の友人ができました。このご縁を留学だけで終わらせたくないと思っています。現在も連絡を取り合っており、来月にはタイの友人が日本に遊びに来てくれる予定です。今後、日本に友人たちが訪れた際には、私が案内して日本の魅力を伝えたいと考えています。そしていつかは、友人たちの故郷を訪れたいという思いもあります。国境を越えた彼らとのつながりを大切にして、異文化理解・異文化交流を続けていきたいです。三つ目は、留学で身につけた韓国語能力と積極性を維持・向上させることです。せっかく高めた韓国語力を落とさないように、自主学習を継続するとともに、横市に在籍する韓国人留学生に自分から話しかけるなど、韓国語を使う機会を積極的に作っていききたいです。また、留学生活を通して「やりたかったことはまず挑戦してみる」という積極的な姿勢が身についたと思います。これからは身の回りにあるチャンスを大切に、興味を持ったことには積極的に挑戦していきたいです。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

半年間の留學生活は、振り返ってみると本当にあっという間でした。出発前は半年もあると思っていましたが、実際に過ごしてみると体感はずくほど短く、気づけば帰国の日を迎えていました。だからこそ、現在留學を希望している皆さんには「やりたいことは全部やる」という気持ちで過ごしてほしいと思います。私は、この半年間でやりたいことをすべてやり切ったと自信を持って言えます。後悔はありません。留學に限らず何事も、あとでやればいいと思っていると、そのチャンスが再び訪れるとは限りません。特に留學は、今このタイミング、この場所、この人たちとだからこそできるというような、その時にしかない経験の連続であり、留學でしかできない経験、留學でしか味わえない感情が確かにあると感じます。例えば、さまざまな国から来た学生と出会い、文化や価値観の違いを知らながら交流を深めること・留學先の地域で実際に生活し、その土地の空気や雰囲気、良さを肌で感じること・現地の人と現地の言葉で会話すること・留學生向けのイベントに参加し、新しいつながりを広げること、どれも普段の生活ではなかなかできない、特別な経験でした。最初は、初めてのことばかりで緊張もしましたし、不安も大きかったです。しかし、思い切って一歩を踏み出してみると、新しい世界がどんどん広がり、自分の興味の幅も広がっていくのがとても面白く、毎日が刺激的でした。留學には不安や心配、ストレスもつきものだと思いますが、それでも私は、留學に行ったことで人生が変わったと言えるほど、自分自身が大きく成長できたと感じています。半年という限られた時間の中で、初めての土地で新しい人たちと出会い、慣れない環境で生活し、勉強し、遊び、今まで味わったことのない感情や景色に出会いました。その経験は、確実に私自身を強くし、価値観や考え方、興味の幅を広げてくれました。そして、自分の奥底にあった夢や本当にやりたいことにも気づくことができました。もし今、留學に行くかどうか悩んでいる人がいるなら、私は心から「ぜひ挑戦してほしい」と伝えたいです。挑戦しやすい環境が多い学生のうちに、自分の気持ちを大切に、やりたいことを後回しにせず、積極的にチャレンジしてほしいなと思います。その一歩が、きっと自分の未来を大きく広げてくれるはずです。